

# 岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 20  
2017. 12

TOPICS

1

## 本学が第1回「ジャパンSDGsアワード」特別賞を受賞!! 国公立大学では唯一

本学は12月26日、第1回「ジャパンSDGsアワード」の特別賞「SDGsパートナーシップ賞」を受賞しました。

ジャパンSDGsアワードは、国連の持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals; SDGs)達成に向けた企業・団体等の取り組みを促し、オールジャパンの取り組みを推進するために、SDGs達成に資する優れた取り組みを行っている企業・団体等を、SDGs推進本部(本部長：内閣総理大臣)が選定し、表彰するものです。本学は、特筆すべき功績があったと認められる企業・団体に贈られる特別賞「SDGsパートナーシップ賞」を受賞しました。国公立大学では唯一の受賞です。

首相官邸で授賞式が開催され、本学より榎野博史学長、高橋香代理事・副学長(企画・評価・総務担当)、狩野光伸副理事、渡邊和良事務局長が出席。榎野学長が表彰状を受け取りました。

同日、津島キャンパスで記者会見が行われ、榎野学長は「岡山大学の取り組みが評価されたことは大変光栄なことです。これまでの岡山市域でのESD活動をはじめとする、地域の皆さまの活動あつての受賞と考えています。今後、さらに地域や国際社会と協働し、SDGsの達成に貢献してまいります」と話しました。

参考 [http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id7256.html](http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7256.html)

TOPICS

2

## 西日本初の大学拠点

## 「教職員支援機構岡山大学センター」を開設 看板除幕式を挙行政



学校教員の養成・採用・研修の一体改革を推進する独立行政法人教職員支援機構は、同機構と本学の連携協力協定による事業の一環として、本学津島キャンパスに、西日本では初の大学拠点となる「教職員支援機構岡山大学センター」を開設しました。同機構と本学は12月13日、看板除幕式を挙行政しました。

教職員支援機構岡山大学センターは本学大学院教育学研究科(教職大学院)内に開設。中国・四国地方における教職員支援機構と大学や教育委員会とのネットワークの拠点や、教員の資質能力の向上に関する調査・分析・研究の拠点、さらには教職員支援機構が行う研修の拠点としての役割を担います。

除幕式には同機構の高岡信也理事長、本学の高橋香代理事・副学長(企画・評価・総務担当)ら約10人が出席しました。

参考 [http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id7237.html](http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7237.html)

## 最近の大学の取り組み

## 岡山大学が映画「8年越しの花嫁」のロケ地に サイン色紙などの特別展示



佐藤健さんと土屋太鳳さんがダブル主演を務めた映画「8年越しの花嫁」(12月9日から岡山先行上映、16日全国公開)で、本学津島キャンパスがロケ地になりました。

公開を記念し、12月7日から、附属図書館中央図書館1階にて、俳優の佐藤健さんと瀬々敬久監督のサイン色紙や、非売品の資料冊子を特別に展示しました。

映画の撮影は本学津島キャンパスの南北通り(岡山大学筋)で行われました。

「8年越しの花嫁」は結婚を前にして難病に陥った、岡山県内に住むある夫婦の奇跡の実話の物語。

参考 [http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id7198.html](http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7198.html)

## 本学附属図書館が岡山市文化奨励賞を受賞

本学附属図書館が平成29年度(第44回)岡山市文化奨励賞(学術部門)を受賞し、11月21日、岡山市役所で表彰式が開催されました。

同賞は、岡山市における文化の向上に中堅的存在として活躍している市民や団体を表彰し、今後一層の研鑽を奨励するため、昭和49年に制定されたものです。

本館は、所蔵している貴重資料を教育や研究、地域貢献に活用している点が高く評価され、受賞に至りました。特に、「池田家文庫」を活用した「池田家文庫絵図展」では、本館で公開・展示していた絵図などの貴重資料をより市民に親しんでもらうことを目的として、平成17年度から毎年、岡山シテミュージアムとの共催で公開展示しています。

参考 [http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id7189.html](http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7189.html)



## アイスホッケー部(女子)がインカレで3位入賞



本学アイスホッケー部(女子)は、11月23～26日にヘルスパイア倉敷(倉敷市)などで行われた第5回日本学生女子アイスホッケー大会(インカレ)で3位に輝きました。

同大会には、地区予選を勝ち抜いた全国の16大学が出場。予選リーグを勝ち抜いた日本体育大学、東京女子体育大学、帯広畜産大学と本学の4校が決勝トーナメントに進みました。本学は惜しくも準決勝で日本体育大学に敗れたものの、3位決定戦で帯広畜産大学に1対0で辛勝し、4位だった昨年の成績を上回りました。

アイスホッケー部に所属する女子プレイヤーは現在約25人。ほとんどが大学からアイスホッケーを始めた初心者で、週2～3回、岡山国際スケートリンク(岡山市北区)で氷上練習を行うほか、筋トレなどの陸上トレーニングで実力をつけています。

参考 [http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id7205.html](http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7205.html)



### PRESS RELEASE 1

## ステルス効果を有する腫瘍融解アデノウイルス製剤の開発 ～ 局所投与から全身投与への適応拡大 ～

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科(医)消化器外科学分野の藤原俊義教授、岡山大学病院新医療研究開発センターの田澤大准教授、黒田新士助教らの研究グループは、これまで局所投与にのみ適応が限定されていた腫瘍融解アデノウイルスを、ナノ技術と融合することにより、全身投与可能なステルス性腫瘍融解アデノウイルス製剤の開発に成功しました。本研究成果は10月26日、英国の科学雑誌「Scientific Reports」(Nature Publishing Group)電子版で公開されました。

腫瘍融解アデノウイルスは現在、国内臨床試験において局所投与による有効性が検証されています。今後、全身投与可能なステルス性腫瘍融解アデノウイルス製剤の臨床開発を進めていくことで、転移を有する進行がんや局所投与が困難な領域のがんへのウイルス治療が可能となり、さらなる適応拡大につながる事が期待されます。

参考 [http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release\\_id515.html](http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id515.html)



### PRESS RELEASE 2

## がん微小環境に関する新たな発見 ～ 宿主由来細胞外マトリックスが腫瘍成長を促進する ～

岡山大学大学院保健学研究科の廣畑聡教授、大学院医歯薬学総合研究科大橋俊孝教授、浅野恵一大学院生らの国際共同研究グループは、がん微小環境において、がん細胞ではなく周囲の宿主由来の細胞がたんぱく質の一種、パーシカンを発現することで血管新生を促進し、がんの成長を促進していることを発見しました。

今回の研究では、がん組織の中に周囲から自身の細胞が入り込んでパーシカンを分泌することに加えて、分解産物はその分布が変化(再配置)することが明らかとなりました。本研究成果は12月8日、英国の科学雑誌「Scientific Reports」の電子版に掲載されました。本研究成果は、これからのがん治療を考える上で、がん細胞自身に対する直接的な治療でなく免疫チェックポイント薬のような新たな治療戦略の開発が重要となってくることを示しています。

参考 [http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release\\_id516.html](http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id516.html)

